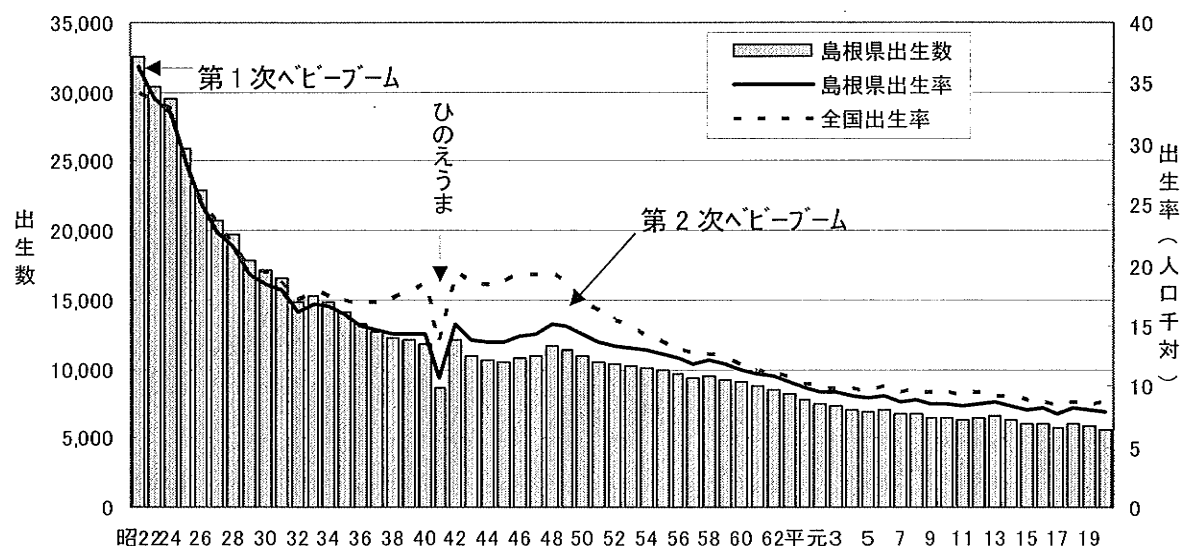


2 出生

(1) 出生数・出生率

平成20年の出生数は5,685人で、前年の5,914人から229人減少し、出生率（人口千対）は7.9（全国第37位）で、前年の8.1を0.2下回り、出生数は過去最低、出生率は平成17年に次いで2番目に低い値となった。出生数、出生率ともに昭和46～49年の第2次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図1）。

図1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移



出生数を母の年齢(5歳階級)別にみると、15～19歳、35～39歳では前年より増加し、20～24歳、25～29歳、30～34歳、40～44歳、45～49歳では減少した(表2)。

表2 母の年齢(5歳階級)別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	18年-17年	19年-18年	20年-19年
総数	5,697	6,011	5,914	5,685	314	△ 97	△229
～14歳	-	-	-	-	-	-	-
15～19	104	95	70	79	△ 9	△ 25	9
20～24	780	796	791	682	16	△ 5	△109
25～29	2,006	2,015	1,971	1,807	9	△ 44	△164
30～34	1,987	2,223	2,101	2,026	236	△ 122	△75
35～39	721	766	852	976	45	86	124
40～44	96	114	125	113	18	11	△12
45～49	3	2	4	2	△ 1	2	△2
50歳以上	-	-	-	-	-	-	-

出生順位別にみると、平成 20 年は第 1 子及び第 2 子は前年より減少したが、第 3 子以上は増加した（表 3）。

表 3 出生順位別にみた出生数の年次推移

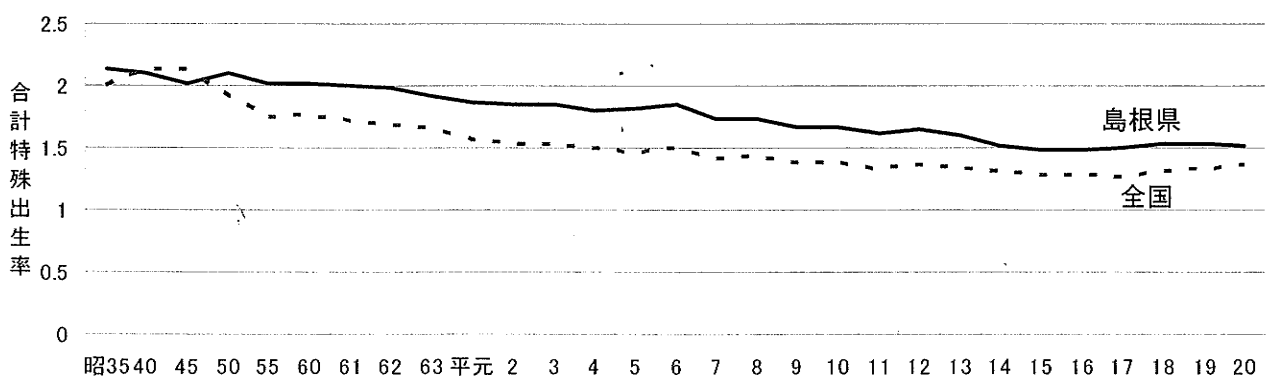
出生順位	出生数				対前年増減		
	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	18 年－17 年	19 年－18 年	20 年－19 年
総数	5,697	6,011	5,914	5,685	314	△ 97	△ 229
第 1 子	2,550	2,646	2,576	2,351	96	△ 70	△ 225
第 2 子	2,099	2,226	2,211	2,130	127	△ 15	△ 81
第 3 子以上	1,048	1,139	1,127	1,204	91	△ 12	77

(2) 合計特殊出生率

平成 20 年の合計特殊出生率は 1.51 であった。全国と比較すると、昭和 50 年以降一貫して島根県のほうが上回っており、順位は全国第 9 位である（図 2）。

なお、合計特殊出生率の算定の基礎となる年齢 5 歳階級別女子人口については、平成 17 年などの国勢調査年は日本人人口を、その他の年は総務省推計人口（総人口）を使用しているため、数値の比較においては注意を要する。

図 2 合計特殊出生率の年次推移



年齢（5 歳階級）別の昭和 45 年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね 20 歳代では低下傾向、30 歳代では上昇傾向にある。平成 20 年は 35～39 歳が上昇し、20～24 歳、25～29 歳が低下したため、35～39 歳が 20～24 歳を上回った（図 3）。

図3 合計特殊出生率の年次推移【年齢階級別内訳】

